

最多得票でオールスター戦にも3年連続出場

3月のワールド・ベースボール・クラシック（WB C）決勝で米国を下し、3大会ぶり3度目の優勝を遂げた日本代表。その勝利に投打で貢献した大谷翔平選手は、大リーグでも連日のように活躍し、投げては7勝、打撃でも31本塁打、68打点（数字はいずれも7月2日時点）とリーグトップに立っている。

エンゼルスに所属する大谷選手は、6月17日のロイヤルズ戦で大リーグ入りしてから通算150号となる今季23号本塁打。日本人選手の通算150号到達は175本塁打の松井秀喜さん（元ヤンキースなど）に続き2人目。

18日のロイヤルズ戦では24号2ランを放って2打点をマークし、大リーグ通算400打点到達した。

22日にはオールスター戦（7月11日）の先発野手を選ぶファン投票結果が発表。ア・リーグの指名打者部門で、大谷選手はリブの264万6300年連続3度目の出場た。投票してくれたファンに感謝したい名譽なこと。これをシヨンとして、グラで全力を尽くし続け

[illegible]

一撃で、ファンに感謝を伝え
た。難しい球を打たれたロッ
キーズのフリーランド投手は
「地球上であの球を打てるの
は彼だけだよ」と脱帽した。
27日のホワイソックス戦
では、投手兼指名打者で先発
し、投手では1失点の好投で
7勝目(3敗)。打者では2
本塁打を放った。登板した試
合で複数の本塁打を打ったの
は初めてだった。

ふじなみせんしゅ
藤波選手が122連勝で世界選手権代表に
れんじょう
せいかいせんしゅけんだいいほう

6月17日に東京体育館で行われたレスリングの世界選手権（9月、セルビア・ベオグラード）代表選考会を兼ねた明治杯全日本選抜選手権で、女子53キロ級の藤波朱理選手が3連覇を果たし、世界選手権出場を決めた。中学2年だった2017年9月から続く公式戦の連勝記録も122に伸ばした。藤波選手は、世界選手権で3位以内に入れば、来年のパリ五輪代表に決定する。

日本体育大学2年で19歳の藤波選手は、4月のアジア選手権（カザフスタ



じゅんじゅんけつしょう し ど ち せんしゅ お こ ふじなみせんしゅ うえ
準々決勝、志土地選手を押さえ込む藤波選手(上)



たいかい さいゆうしゅうせんしゅしょう えら かか ふじなみせんしゅ
大会の最優秀選手賞に選ばれ、トロフィーを掲げる藤波選手

ン・アスタナ）で2連覇。決勝までの3試合を圧勝し、公式戦の連勝を119とし、五輪3連覇の吉田沙保里さんが持つ記録に並んだ。そして、今回の全日本選抜では初戦の準々決勝で東京五輪金メダルの志土地真優選手に快勝して吉田さんの記録を抜き、準決勝、決勝も相手を圧倒して連勝を122とした。

巧みな組み手を武器に優勝した藤波選手は、「自分のレスリングができたことが、結果につながった。（世界選手権では）チャンスをも物にしないといけない。まだ伸びしろがある。もっともっと強くなりたい」とさらなる向上心を示した。

かとうせんしゅ　こんこう
加藤選手が混合ダブルスで初優勝
おだせんじゅ　くめいあまのこ
小田選手は車いす男子シングルスで史上最年少V
ぜんふつ　せんしゅ
全仏テニス

5月^{がまつ}末^{まで}から6月^{がつ}11日^{にち}までパリ^{パリ}で行^{おこな}わ
れた全^{ぜん}仏^{ふつ}オーブン^{おーぶん}テニス^{てにす}の混^{ごう}合^{ごう}ダブ
ルス^{だぶるす}で、ティ^{てい}ム・フッ^{ふつ}ツ選^{せん}手^{しゅ}（ドイ
ツ）と組^くんだ加^か藤^{とう}未^み唯^い選^{せん}手^{しゅ}がカナ^{かな}ダと
ニュ^{にゅ}ージ^じーラ^らンド^{らんど}のペ^ぺア^あに逆^{さか}転^{てん}勝^{しょう}ち
し、初^{はつ}優^{ゆう}勝^{しょう}した。車^{くるま}いす男^お子^こシン^{しん}グ^ぐル
スの小^お田^た凱^{がい}人^{にん}選^{せん}手^{しゅ}は英^{えい}国^{こく}の選^{せん}手^{しゅ}を6
1、6、4で破^{やぶ}り、四^よ大^{だい}太^{たい}会^{かい}初^{はつ}優^{ゆう}勝^{しょう}を
果^はたした。17歳^{さい}33日^{にち}での四^よ大^{だい}太^{たい}会^{かい}男^お子^こ
シン^{しん}グ^ぐル^るス種^{しゅ}目^{もく}の制^{せい}覇^ぱは、史^し上^{じょう}最^{さい}年^{ねん}少^{しょう}
記^き録^{ろく}。



男子車いすシングルス決勝でプレーする小田選手(AFP時事)



混合ダブルスで優勝した加藤選手(左)。

加藤選手は今大会、インドネシア選手と組んだ女子ダブルスの3回戦で、加藤選手が試合中に相手コートへ送った球がボールガールに直接当たり、危険な行為と見なされて失格に。しかし、そのショックをはね返し、四大大会での初優勝をもぎ取った。加藤選手は「この優勝は、今の私にとってすごく大きい。もう一生涯、失格にならないことを心掛ける」と話した。

小田選手は、得意の強打で試合を有利に進めた決勝戦でストレート勝ち。「多くの応援が力になった。みなさんのパワーで勝てた」と感謝した。9歳で左股関節に骨肉腫を発症し、車いすでの生活に。10歳で車いすテニスを始め、それから7年で四大大会の一つを制した。

に ほんだいいまふ
 サッカー日本代表が中南米のチームに連勝
 ろりやすかんこく
 森保監督も結果に満足

サッカーの日本代表が国際親善試合で中南米のチームに連勝した。

6月15日に愛知・豊田スタジアムで行われたエルサルバドル代表戦。国際サッカー連盟（FIFA）ランキング20位の日本代表は、同75位と格下の相手に6-0で大勝し、昨年のワールドカップ（W杯）カタール大会後の初勝利を挙げた。20日には大阪・パナソニックスタジアム吹田で、FIFAランキング21位のペルー代表に4-1で快勝した。

いずれの試合も、日本は三苦黨、堂安律、久保建英、谷口彰悟ら外国のチームで活躍する選手たちが積極的に攻撃を仕掛け、それぞれ結果を出した。

チームの軸となる三苦選手は「チャンスをつくるのが自分の役割」と話していた通り、ドリブルで何度も左サイドを突破し、ペルー戦では得点も挙げた。

森保一監督は「目指すべきはゴールということと、積極的にチャレンジしてくれた。この結果に満足することなく、さらに上を目指していきたい」と笑顔で話した。



日本一エルサルバドル。後半、頭で競り合う
久保選手(左手前)



日本一ペルー。
前半、ゴールを決める三笥選手(左から2人目)